

# 防災から減災は、エネルギー設備の 保守点検推進と分散エネルギーの確保

(一社)日本エネルギー設備保安推進協会 代表理事

近藤 豊嗣



新年明けましておめでとうございます。オンラインピック開催が迫る開催地・東京は、活気に充ちています。日本エネルギー設備

保安推進協会(JESAA)では非常用発電設備が、緊急事態で能力を發揮するための、1/3負荷試験の実施、負荷試験実施者の育成

を推進しております。度重なる災害と昨年の消防法の改定により、世間の認識が高まり、より一層の啓蒙推進に力を入れて参ります。  
「防災から減災へ」は、私たち一人一人が「自分の命は自分で守る」という、災害に対する危機意識を確立させることが最も重要です。そのためには、エネルギーと食糧の確保が必要不可欠です。各自治体、地域(町会)と

一緒になって、BCP対策を啓蒙推進する「時」と捉えています。災害場所のニーズを見ていくと目に飛び込んでくるのは、孤立した地域の電力の確保であると感じ、誰にでも容易に使える「災害時に必要な小電力エネルギーの提供」製品を、本年、設立46周年を迎える辰巳菱機と共同開発し、このたび「助っ人くん」が登場しました。小型収納ケース

に、ソーラー発電セット(出力100V200W)・ガソリン/LPガス発電機(出力100V4kW)を組み入れた、「動く」ハイブリッド電力で、移動が簡単なパッケージ化しました。  
イザ!という時に身近な置き場から災害場所に可動できます。今年、JESAA会員(全国30拠点)、公共・集会所、各地の物流拠点への配置を推進して参ります。

さらにJESAAでは、長年、エネルギーの貯蔵を産学で取り組んでおります。負荷試験時のエネルギーや太陽光発電の電力を電気自動車のリユース、バッテリーを利用して、貯蔵し再利用。また風力、水力等のグリーン電力から水素を取り出し、水素エネルギーの運搬が容易な有機ハイドライド方式による備蓄保管をして、簡単に水素を使う研究開発等も行っています。  
オリンピックの競技会場が近くにある協会として、規制のかからない水素ボンベ3kgを装着して走行する一人乗り4輪原付自転車を、産学連携で2020年春を目標に製作しています。

「電気の供給は当たり前」から、個人で電力を貯蔵したり、太陽光温水器でお湯を確保したり、ビルの屋上にはグリーンエネルギー等々、「エネルギー自給自足の時代」の到来を感じます。

2020年を目指して、災害に強い街づくりを、協会員の皆様と一緒に進めたいと決意を新たにし、新年のご挨拶とさせていただきます。

一般社団法人 日本エネルギー設備保安推進協会

代表理事 近藤 豊嗣

1/3負荷試験の推進

JESAA

〒136-0074 東京都江東区東砂七丁目十六番十二号  
TEL 03(3648)1317  
FAX 03(5635)1771